

# 大阪城

2023  
10/2 (月)  
14392 号

全港  
西成  
会館

24  
6647-  
4947

10月に入り、秋を感じることにもなってきた。  
東京の国会もようやく10/20(金)から開くとなり  
政治も、平場の話もふえてきて、こゝから経済や  
この国の動きもわかり、判断もつく材料も出て  
くるのかもしいない。10/22(日)には長崎4区の  
衆院と、徳島・高知の参院の補欠選挙があり、  
票の出方や勝負により、山内田政権への評価も  
一定わかるので、解散・総選挙への判断材料  
にもなるのだろう。

物価高、インフレ、日々、経済的生活が苦しくなり、  
明日への見通しが暗くなる現実に対し、経済  
対策を説明する国会になるようだ。しかし、  
社会や国のあり方の土台から変革しないと、  
今おこっている東アジア・世界の大変化には  
おくれをとって取り残されていく運命にある。

眼前にある困難な条件を切り開くような道と  
方策などが国会での論戦や選挙などの戦いの  
中で、生かされてきたなら良いのだが、どのようにな  
るヶ月になっていくだろうか。雪も降り、ふさふ  
さるような寒さの中を進んでいくことになるの  
だろう。

# 暗雲漂う万博・カジノ、自滅の道

大阪IR・夢洲開発に伴う「維新の政策」に反対する特別決議

2025年夢洲で開催予定の万博工事に積極的に公的資金をつぎ込んでいるが、現実には陰に隠れたIR建設です。吉村大阪府知事は「IR建設に行政の負担はない」と述べていますが、夢洲の埋立て造成については大阪市の負担で、直近の1年間で工事費用は、2、300億円に増加しています。また、土壌汚染が明らかになり、その対策には約800億円が必要ですが、松井前市長は当初、住民説明会で「IR、カジノに税金は一切使わない。民間事業者が投資してくれる」と述べており、明らかな公約違反です。

これまで大阪の港湾業界労使も「万博開催は関西経済の起爆剤」として、港湾業務に支障を出さないことを前提に一定の理解を示し、工事計画に協力の姿勢を示してきたのにもかかわらず、万博協会・大阪府・大阪市が2025年関西万博の工事を最優先させているため、海上コンテナ車の待機場、待機レーンの新設計画ありません。もともと待機レーンもない道路で、路側帯と走行車線上に並ばざるを得なくなっています。港湾労使の納得のいく協議を全く行わずに、港湾業界が堅持する事前協議をも蔑ろにし、「DICT取り扱いの本船の他港シフト」や「C/Yゲートオープン延長」などを一方的に検討し、勝手な報道発表で既成事実化することは絶対に許されません。

政府は、今年行われた統一地方選挙の結果を待つように大阪府に「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」を認定しました。

IRに関しては、新型コロナウイルスにより、世界各地でカジノ会社が破綻したりネットカジノに移行したりするなど、期待しているほどの収入は見込めないと考えられます。そのうえギャンブル依存症、周辺地域への治安の悪影響、多数の来場者が来た時のテロ行為など万に一つもよいことはありません。

人の不幸で儲けるカジノ誘致で、大阪市の経済は決して良くなりません。

港の秩序と関西の物流拠点を守るうえで、大港労協を中心に全港湾関西地方本部が先頭に立ち取り組むことを決議します。

全日本港湾労働組合関西地方本部第78回定期大会20230830

## 大阪人、すこしは正気を取り戻そう